

各 高 圧 ガ ス 関 係 事 業 所 長 様

愛 知 県 防 災 安 全 局 長
名 古 屋 市 消 防 局 長

第 6 1 回 愛 知 県 高 圧 ガ ス 保 安 大 会 の 開 催 に つ い て (通 知)

高 圧 ガ ス 保 安 活 動 促 進 週 間 の 行 事 の 一 つ と し て 「 第 6 1 回 愛 知 県 高 圧 ガ ス 保 安 大 会 」 を 下 記 の と お り 開 催 い た し ま す 。

つ き ま し て は こ の 趣 旨 を 御 理 解 の 上 、 貴 事 業 所 関 係 者 を 本 大 会 に 参 加 さ せ て い た だ き ま す よ う お 願 い い た し ま す 。

記

1 開 催 日 時

令 和 6 年 1 0 月 2 4 日 (木) 午 後 1 時 3 0 分 か ら 午 後 3 時 3 0 分 ま で

※ 1 事 前 に 団 体 あ て 申 し 込 ん で く だ さ い 。 (F A X : 0 5 2 - 3 2 3 - 8 8 3 6 、 メ ー ル : a - r e i t o @ s u n n y . o c n . n e . j p)

※ 2 参 加 費 不 要 で す 。

※ 3 な お 、 参 加 者 の 方 に は 、 参 加 証 明 書 を 発 行 し ま す 。

2 開 催 場 所

愛 知 県 産 業 労 働 セ ン タ ー (ウ イ ン ク あ い ち) 大 ホ ー ル

(名 古 屋 市 中 村 区 名 駅 四 丁 目 4 番 3 8 号 裏 面 会 場 案 内 参 照)

3 内 容

(1) 表 彰 式

令 和 6 年 度 高 圧 ガ ス 保 安 関 係 保 安 功 労 者 等 知 事 表 彰

(2) 講 演

演 題 「 関 東 大 震 災 が つ く っ た 二 つ の 街

ー な ぜ 名 古 屋 は 住 み 良 く 東 京 は 住 み 難 い の か ? ー 」

講 師 名 古 屋 大 学 減 災 連 携 研 究 セ ン タ ー 特 任 教 授

武 村 雅 之 氏

担 当 防 災 部 消 防 保 安 課 産 業 保 安 室
高 圧 ガ ス グ ル ー プ (赤 松 、 伊 吹)
電 話 0 5 2 - 9 5 4 - 6 1 9 7 (ダ イ ヤ ル イ ン)
F A X 0 5 2 - 9 5 4 - 6 9 0 9

第2部講演

関東大震災がつくった二つの街

－なぜ名古屋は住み良く東京は住み難いのか？－

名古屋大学 減災連携研究センター

特任教授 武村 雅之(たけむら まさゆき)氏

【講師略歴】

東北大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)。鹿島建設株式会社プリンシパルリサーチャー、株式会社小堀鐸二研究所副所長などを経て、現在、名古屋大学減災連携研究センターエネルギー防災寄付研究部門特任教授。関東大震災の震源から復興まで30年以上研究を続ける。

【講演内容】

講演では、関東大震災後の帝都復興事業を紹介し、街づくりの良し悪しが、街の防災力を左右するばかりか、市民生活の良否をも左右することを指摘する。震災の反省にたって進められた帝都復興事業は、東京を地震に強い街にただけでなく、ロンドンやパリにも負けない品格のある首都に変貌させた。このような東京を手本に街づくりをはじめた名古屋は、戦後もその方針を貫き、今や日本で最も住みやすい街の一つとなっている。

一方、東京は、戦後の復興に失敗し、行き過ぎた経済性・効率性の追求によって、地盤沈下による極端なゼロメール地帯や郊外の木造密集地域の出現、首都高速道路による景観や環境の破壊。さらに最近では、都心部の高層ビルや洋上埋め立て地のタワーマンションの林立を招いている。これらによって市民の住み易さは損なわれ、地震時には他の街では考えられないような防災上の問題を抱えるに至っている。街は市民に対し平等に利益をもたらすものでなければならない(住み易さ優先)。東京と名古屋を例に街のあるべき姿をみなさんと考えたい。

会場案内

●ウインクあいち
愛知県産業労働センター
〒450-0002
名古屋市中村区名駅4丁目4-38

～交通アクセス～

(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)名古屋駅より

- ◎ JR名古屋駅桜通口から
ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ◎ ユニモール地下街 5番出口徒歩2分
- ◎ 名駅地下街サンロードからミッドランドスクエア、マルケイ観光ビル、名古屋クロスコートタワーを經由 徒歩8分



☆ 公共交通機関でお越しいただきますよう、お願い申し上げます。